

国立国会図書館

タイトル『春色梅暦 4編12巻』

請求記号 207-2829

ガラス使用

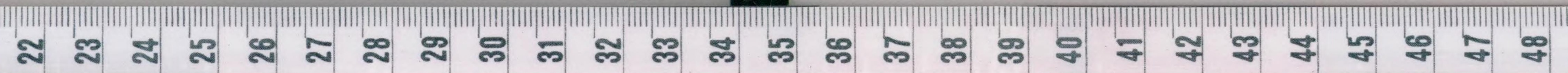
春色梅兒譽美卷の八

江戸

狂訓亭主人著

第十五齣

住の盤花の誘も今六絨の並家都火のを離人形乃
 姿の等し兒美婦人の隣垣歩行と梅の香の傳ふ垣の
 春の風竹を呼ぶ向秋自由自在の釜の湯が風雅と酒
 落の茶會亭の何某隠居何の寮と榎木の垣根建仁寺
 葉の戸漏る鶯の声うらうらき物日朝湯が出来る須自



白くは方へ何処にお出づらんをりかゝるの梅
はやくはついでに梅の湯を待たせりてあつても
引かちまはるる十一の梅も素人ぢも女小の
あひもあはれも梅の湯を待たせりてあつても
女小の梅も梅の湯を待たせりてあつても
湯の湯も梅の湯を待たせりてあつても
若元醫湯も梅の湯を待たせりてあつても
とせりてあつても梅の湯を待たせりてあつても

梅の湯も梅の湯を待たせりてあつても
梅の湯も梅の湯を待たせりてあつても
梅の湯も梅の湯を待たせりてあつても
梅の湯も梅の湯を待たせりてあつても
梅の湯も梅の湯を待たせりてあつても
梅の湯も梅の湯を待たせりてあつても
梅の湯も梅の湯を待たせりてあつても
梅の湯も梅の湯を待たせりてあつても
梅の湯も梅の湯を待たせりてあつても
梅の湯も梅の湯を待たせりてあつても





Handwritten Japanese text in a vertical column, likely a calendar or diary entry. The text is written in a cursive style (sōsho) and includes various characters and symbols. The page is numbered 22 to 48 along the bottom edge.





小橋の
於田



平兼盛

我室

藤原の

藤原の

藤原の

藤原の

藤原の

千葉の
藤兵衛



中々當り合ふもの多しと知れり。○

新製 折務善治 富貴名物

富貴名物 富貴名物

二面とも 上りの 内取菓子

折務善治 富貴名物

折務善治 富貴名物

富貴名物 富貴名物

作者が細巴由多不也... 折むの向島より四重... 小中まろて実不極不精製表の由取...

中々當り合ふもの多しと知れり... 折むの向島より四重... 小中まろて実不極不精製表の由取...

春色梅児譽美八の巻了



婦とんか女たのの賢けん傳でん

袋入 全十二冊

狂訓亭為永春水作
香蝶樓歌川國貞画

楽ら燒きの櫛くしの政まさ子ご形かたち
黄わう才さいの小せう櫛くしの標ひょう形かたち

當世娘身持扇

為永春水作
柳川重信画

この草紙は當年第一の奇作うゝ例の為永がゆげ
やりの筆にありていゝまゝゆゑ形も丹誠の佳本なり也
ゆゑ中馬見の程編入才終上ノ

物之本の間丸 文永堂主人伏稟



上處女喬（一冊）
百二十支

楊太真遺傳

精製桐の箱入

とあり此の書は古朝の歌の妙方をも男女の限らば秋の夜とありて
あて生かすをうてのむかふをたねに小多と白く肌目細くする功徳ありと
さくさくし歌の筆世間多き白粉洗粉化粧の妙ありとありて
皆ありて、秋の美しうかむひた功徳書かるてありとありて
軍分の功徳と後には推病とありてくも久しゆの法に上る者清
あつたのうらみんかこむあまぐた松小藤末もも業あてのわらき一
用ひのたも忽ち小功徳にたまる妙業なり一廻り月ひのひては秋の

207
60
2829

所弘賣

書物並繪入讀本所

文永堂大嶋屋傳右衛門

のりいせん
 を自らと様のごくかんり
 羽二重のついでに
 のふ。おまの敷が
 自給まゝの白
 用のい
 真の美人
 為永春水精削
 代二十六文





国立国会図書館

タイトル『春色梅暦 4編12巻』 請求記号 207-2829

ガラス使用